

株式会社トータルメディア研究所

昭和57年9月
会社発足時
コーポレート

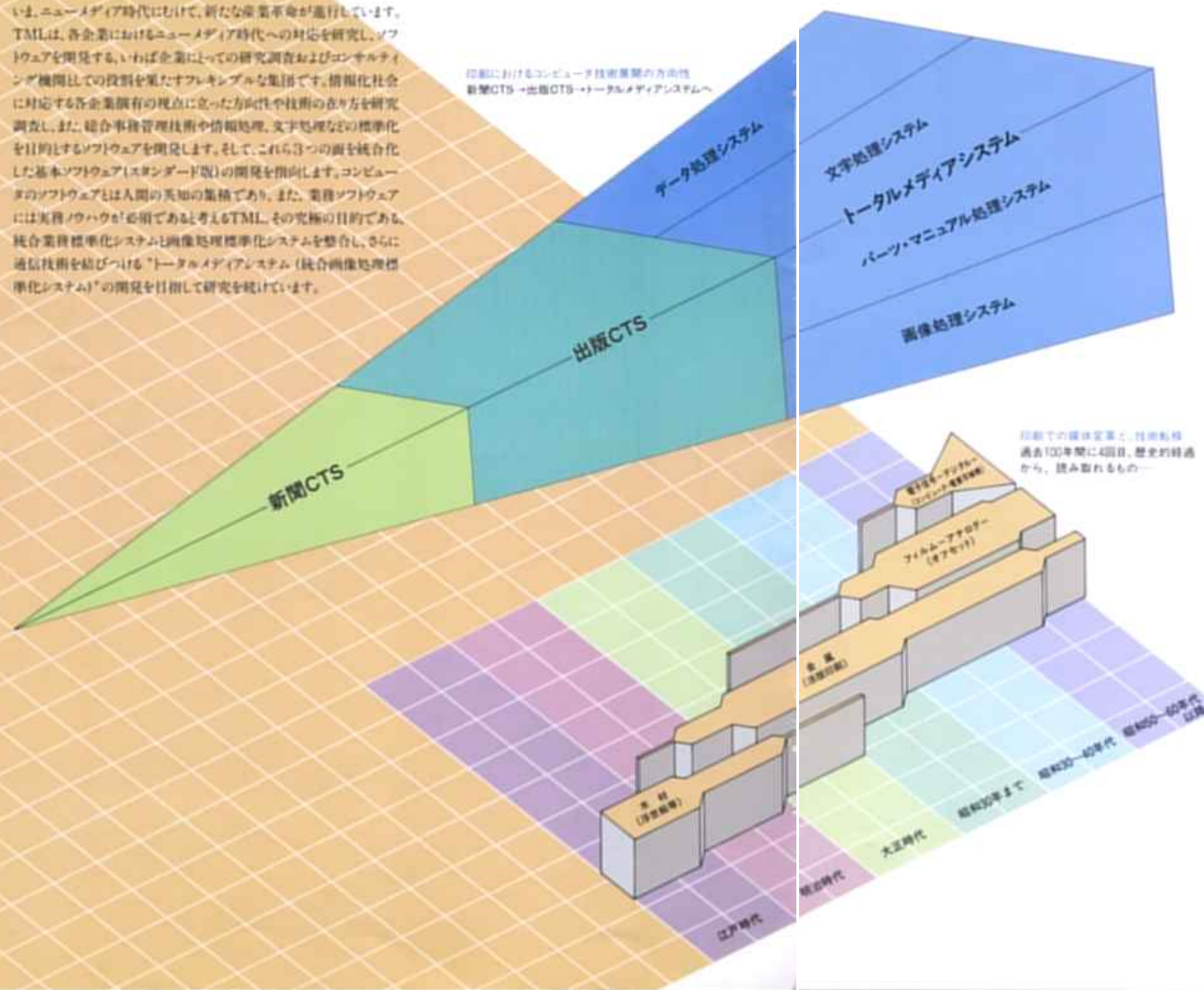


未来への起点——トータルメディアシステム

“拡印刷”の視点から提案いたします。

いま、ニューメディア時代において、新たな産業革命が進行しています。TMLは、各企業におけるニューメディア時代への対応を研究し、ソフトウェアを開発する、いわば企業にとっての研究調査およびコンサルティング機関としての役割を果たすフレキシブルな集団です。情報化社会に対応する各企業固有の視点に立った方向性や技術の在り方を研究調査し、また、総合事務管理技術や情報処理、文字処理などの標準化を目的とするソフトウェアを開発します。そして、これら3つの面を統合化した基本ソフトウェア(スタンダード版)の開発を指向します。コンピュータのソフトウェアは人間の英知の集積であり、また、業務ソフトウェアには英知ノウハウが必須であると考え、TMLの究極の目的でも、統合業務標準化システムと画像処理標準化システムを整合し、さらに通信技術を結びつける「トータルメディアシステム(統合画像処理標準化システム)」の開発を目標として研究を続けています。

印刷におけるコンピュータ技術展開の方向性
新聞CTS → 出版CTS → トータルメディアシステムへ



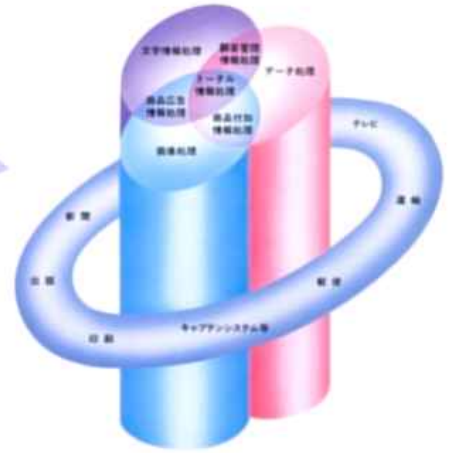
印刷での媒体変遷と印刷製
過去100年間に4回目、歴史的経過
から、読み取れるもの——



代表取締役
荒尾 稔

TMLは印刷・製版業界を得意とした研究開発企業です。日本では、この100年間に印刷媒体は、4回目の媒体変遷の歴史を辿っています。現在、メディア・エクスプレスと呼ばれるこの4回目は製版が同じで媒体が異なる時代です。その一方で、特に業界に対する高度加工技術がニューメディア時代に最も重要な生産手段であり定義され、重要な競争力に富みつけられ、与えられています。いままでの印刷媒体の変遷の歴史から、メディア変遷を予測する、いま何が問題であり、その方向性について対応するためのプログラムが浮かんできます。この歴史での構造解明を行い、基本的な技術の開発はその基礎をTMLは考えます。支援ソフトウェアとして、ハードウェアの進化を得る構想も視野に、技術開発を進めます。これからは、情報処理の進化に対応して、文字や画像処理等(情報処理・情報加工)、事務管理の発展の方向に、業務手帳の100年間の進化の方向性が読み取れます。その進化を、フィルム、コンピュータ化の衝撃を、手に入れた研究開発を進めていけば、印刷・製版業界が情報社会で果たす役割は必ず増幅されて、ビジネスチャンスはさらに広がります。その第一歩として業務の標準化を行い、その定義化による社内総合情報管理の構築が第一歩です。これが、即ちニューメディア時代への「スタンダード版」の完成です。TMLは各種の標準化を行います。1社でも多くの企業がニューメディア時代への対応に成功されることを希望してやみません。

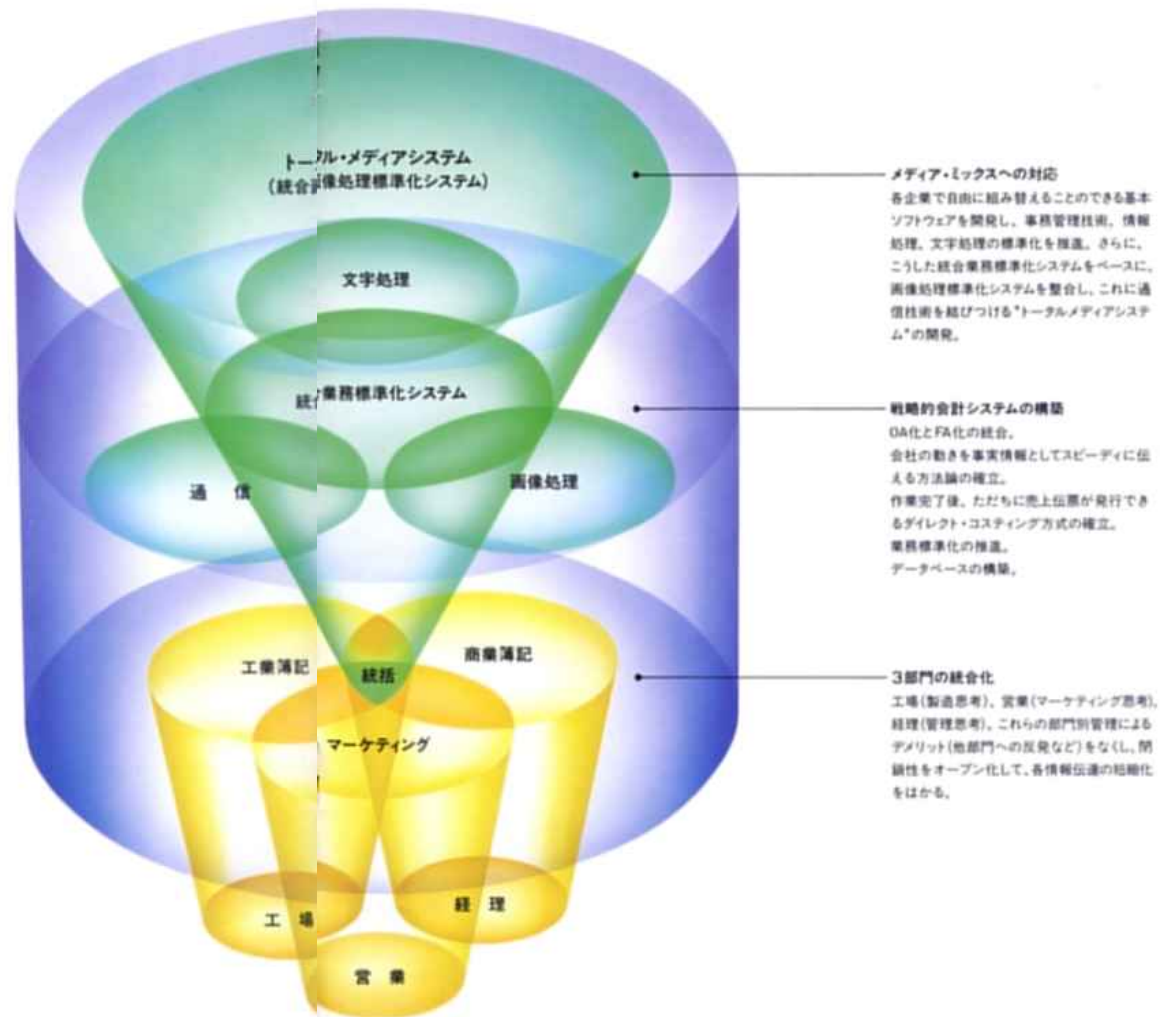
メディア・エクスプレスの方向とイメージ図



TMLは、工場・営業・経理におけるすべての業務処理の統合管理を提案します。

ニューメディア時代へのパスポート——社内の体質改善をスタート台として、6カ年の長期 経営戦略の立場から、年間を半期にわたった戦術的経営のためのプランニングの支援まで。

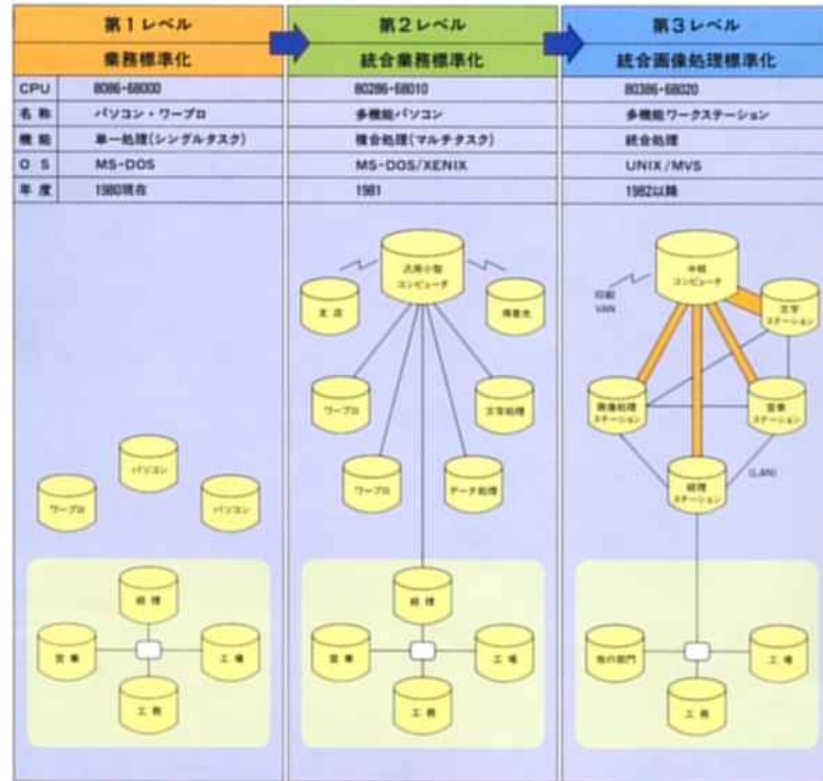
物を生産し、分配し、消費することが社会を動かす主要な要素としてあった時代が去り、かわって、それをベースとしながらも“情報”というものの価値がますます高まる時代が始まっています。つまり、情報を収集し、伝達することが社会全体の中できわめて重要な要因となったわけです。これは、業務の合理化、コストの削減、技術開発力の向上をはかる上での必然の結果です。ひとつの専門企業が、その個別な世界での市場戦略を立てて活動していたのに対し、現在では、その専門分野以外の業種すなわち通信、運輸、印刷といった分野をも包含した新たな戦略を展開しているのもその一例です。こうした高度情報化社会の動きを捉えるのがニューメディアです。ニューメディアは、いかかれば納期ゼロの世界であるといえます。欲しいときに欲しい情報が得られる世界。通信技術がさらに発達すると、ありとあらゆる業種が一体化することになり、これがメディアミックスと呼ばれ、それに勝ち残るには、いかに納期を短縮するかが最大のポイントになってくるわけです。最先端技術を入れたニューメディアが構築する新しい時代は、まさに情報伝達の速さを競う時代ということになります。それは、かつての部門別管理(工場・営業・経理)から、統合化への変革です。すなわち、新しい時代に対応した、即時処理による事実情報収集をベースに統合化した戦略的な経営システムの構築がいかに必要であるかを示すものです。ここで、統合化とは、あらゆる業務が一連の統合化された概念により一体化して管理されることを意味します。例えば、OA化とFA化の統合であり、各部門の動きが事実情報として経営者に伝達される方法論の確立です。また、即時情報提供のための業務標準化を進め、データベースの構築や、あわせて情報処理技術者の育成も含まれます。情報が核となるニューメディア時代、それは、企業がいかに即時に提供しうるデータベースを構築しているかによる競争の時代です。データベースとは、伝票系とファイリング技術の集大成、あらゆる業務に標準化が欠かせないのはそのためです。情報新時代、TMLは、そのノウハウと技術開発力、そして先見性で、新しい企業経営のあり方を提唱します。



長期的な展望に沿って、コンピュータの進化に合わせた標準OSによるソフトウェア開発をおすすめします。

パソコンやワープロから多機能パソコンへ、そして、文字・画像処理用のエキスパートシステムの構築へ、TMLは、各方面から標準化したシステムの構築を推進。これにより、個別に存在するデータ処理や画像処理などが一体化し、マルチワーク化が実現します。

トータルメディアシステムの実現にいたる過程を3段階に分け、各レベルに合わせた業務標準化をベースに文字・画像処理の3つの体系的業務用ソフトウェアを開発しております。



標準化システム完成のための研究会からSEの育成まで、TMLが貴社を支援します。

TMLは、ニューメディアに対応する業務ソフトウェアの開発を進めるとともに、その普及に努め、また、最適なソフトウェアを提供。企業内における業務標準化の確立をはかると同時に、情報処理技術者の育成にも力を注いでいます。会社全体を対象とするSPP研究会と、個人を対象とした技術者育成を目的とするTML塾は、その一例です。

会社全体を対象に—SPPシステム研究会

従業員計的方式とファイリングシステムの確立による業務標準化の実現。そのための具体的な方法論。それがSPPシステム研究会です。一社または数社の参加により開講し、特に複数社参加の場合は、自社内だけでは工夫できない方法論が共同研究によりマスターできるというメリットがあります。

個人に得る技術—TML塾

貴社の社員を情報処理技術者として育成するTML塾。育成にあたっては、メンタルな影響を考慮し、小人数制による本格的な教育を実施します。期間は3ヵ月を単位とし、さらに長期的なカリキュラムによってニューメディア時代に対応できる方法論の習得へと発展してゆく即戦力養成機関です。

